



《コロナ禍の中での卒業式》

雪解けの3月、全国各地で桜の開花宣言が出される季節となりました。漱石の句に「濃かに弥生の雲の流れけり」というのがあります。春に向け水分を含んで濃密になった雲が、里山に恵みの雨を齎し、新たな生命を育てていくという意味です。

コロナ禍に翻弄された令和2年度もようやく終わります。子どもたちにとって大変な一年でしたが、その中において「多くの学び」があったことも確かです。行事の中止や延期の中で右往左往しながらも、工夫を重ねて思い出作りに取り組んだ子どもたち。学校現場は勿論、親も地域の方々も一致協力して子どもたちのためにいろいろ奔走してくれました。いずれにせよ、子どもたちの心の中には忘れることができない経験や思い出として、しっかりと植え付けられたはず。そして、この経験が将来、鱈ヶ沢町を見据え、未来を担っていく一人一人の思いとなり地域貢献の礎となっていくのではないのでしょうか。

その中でも、常に先頭に立って学校を牽引してくれた最上級生たち、その子どもたちが惜しまれながらも、先日それぞれの母校を巣立っていきました。親御さんにとっては喜びも一入ではなかったかと思います。鱈ヶ沢中(62人)は11日に、舞戸小(32人)は18日に、西海小(22人)は19日に卒業式が挙行されました。凜とした雰囲気の中にもしっかり前を向き、自分を律している姿は素晴らしいの一言です。4月から6年生は中学校へ、中学3年生は高校へと進学し、新たなスタートを切ることになります。漱石が詠んだ句のように、新たな気もちで、新年度それぞれの場所で大いに躍動してほしいものです。改めまして、「ご卒業おめでとうございます！」

さて、4月よりコミュニティ・スクールも3年目を迎えます。『地域とともにある学校』をコンセプトに様々な事業を展開していきたいと考えています。今後も地域の皆様のご協力をよろしく願いいたします。 《記 社教推進 DC 木村》

《西海小学校》

卒業式のようす



《舞戸小学校》



《鱈ヶ沢中学校》

